



日本各地のEG実践地に取材し、調査結果を発表した公共政策コース4年の鈴江ひかりさん。鳴門市の126社を対象としたアンケートから、設立年数10年未満の企業は支援制度をよく活用しているが、20年以上30年未満の企業の活用率は低く、企業から手続きの簡略化や専門家による適切なアドバイスを求める声があったことなど、EGに関する考察と提言を行いました。



企業や自治体、地域の経済団体などが全国各地から参加し、そこにはゼミ生も加わります。こうした会をきっかけに企業に興味を持ち、地元企業への就職を考える学生もいるそう。

「例えば『ふとんのタカハシ』さんは、社員同士で感謝を伝え合う『サンキューカード』を導入するなど、働きやすい職場環境づくりを行っている楽しくてアットホームな会社です。

ブライダルの『ときわ』さんは、社員の提案や意見をもとに経営を進めるとトムアップ企業。現場の意見を重視し、それが企業の方針や戦略に反映される仕組みを持つ

学生ベンチャー『OSA』
エコノミックガーデン
めるための地元企業の情相
一役買っているのが、段階
研究室のゼミ生たちが立て
徳島大学発ベンチャー企業
会社OSATO)です。

学生ベンチャー『OSATO』

か高く
組織
業が多
いく
シング
の卒業生は会長となり、4年生
が社長を務めているのだとか。
『OSATO』は学生の視点から、企業の魅力を紹介する動画や
インタビュー記事の作成、商品開
発のためのアンケート調査など、
情報発信を通じて中小企業支援を
行っています。

「学生が情報発信するメリット」

「学生は自分がやりたいことができる企業か、自分の意見を聞いてもらえる企業かなど、働きがいや自身のキャリアビジョンを真剣に考えていました。そうした企業が徳島にもあると分かれば、徳島県に残つてもらえるはず。在学中でできるだけ地元企業の魅力に触れる機会を作れたらと思つています」。

多様化も期待できます。
地域資源を活かしたビジネスが
増えれば、地域産業の発展にも貢
献できる。県全体の魅力が向上す
れば、若者の定住の促進にもつな
がると思います」。

今後は阿南市でもエコノミック
ガーデニングが導入される予定。
徳島県がエコノミックガーデニン
グの最先端地域として注目される

「学生が情報発信するメリットは、同じ立場で学生の心に響くことのを作れること。学生が地域に入つて企業を深く知ることで、就職の際、県内企業に目を向けきっかけになります」。今後は地域、経済論の受講生も企業を訪問し、取材を行う予定だといいます。

「学生が情報発信するメリツト

「学生は自分がやりたいことができる企業か、自分の意見を聞いてもらえる企業かなど、働きがいや自身のキャリアビジョンを真剣に考えています。そうした企業が徳島にもあると分かれば、徳島県に残つてもらえるはず。在学中にできるだけ地元企業の魅力に触れる機会を作れたらと思つています」。

多様化も期待できます。
地域資源を活かしたビジネスが
増えれば、地域産業の発展にも貢
献できる。県全体の魅力が向上す
れば、若者の定住の促進にもつな
がると思います」。

今後は阿南市でもエコノミック
ガーデニングが導入される予定。
徳島県がエコノミックガーデニン
グの最先端地域として注目される

企業や自治体、地域の経済団体などが全国各地から参加し、そこにはゼミ生も加わります。こうした会をきっかけに企業に興味を持ち、地元企業への就職を考える学生もいるそう。

「例えば『ふとんのタカハシ』さんは、社員同士で感謝を伝え合う『サンキューカード』を導入するなど、働きやすい職場環境づくりを行っている楽しくてアットホームな会社です。

ブライダルの『ときわ』さんは、社員の提案や意見をもとに経営を進めるボトムアップ企業。現場の意見を重視し、それが企業の方針や戦略に反映される仕組みを持つ

学生ベンチャー『OSA』
エコノミックガーデン
めるための地元企業の情相
一役買っているのが、段階
研究室のゼミ生たちが立て
徳島大学発ベンチャー企業
会社OSATO)です。

か高く
組織
業が多
いく
シング
の卒業生は会長となり、4年生
が社長を務めているのだとか。
『OSATO』は学生の視点から、企業の魅力を紹介する動画や
インタビュー記事の作成、商品開
発のためのアンケート調査など、
情報発信を通じて中小企業支援を
行っています。

「学生が情報発信するメリット」

「学生は自分がやりたいことができる企業か、自分の意見を聞いてもらえる企業かなど、働きがいや自身のキャリアビジョンを真剣に考えていました。そうした企業が徳島にもあると分かれば、徳島県に残つてもらえるはず。在学中でできるだけ地元企業の魅力に触れる機会を作れたらと思つています」。

多様化も期待できます。
地域資源を活かしたビジネスが
増えれば、地域産業の発展にも貢
献できる。県全体の魅力が向上す
れば、若者の定住の促進にもつな
がると思います」。

今後は阿南市でもエコノミック
ガーデニングが導入される予定。
徳島県がエコノミックガーデニン
グの最先端地域として注目される

持続可能な地域の在り方を探る エコノミックガーデニングによる地方創生

総合科学部 教授 段野 聰子 (だんの さとこ)



025年3月1日は「第2回 地域活性化のための人財育成－コノミックガーデニング(EG)の見聞から－」を開催。EG寒川、EG都、EGおさか、EG鳴門などに取り組む人たちが全国からまり、「エコノミックガーデニング策における自治体の取り組み」について発表・話し合った。

地元企業や地域産業の発展により、地域経済の活性化を目指す「EG」。地域を「土壤」、中小企業を「植物」に見立て、庭木を育てるように地域経済を手間暇かけて育てて、という取り組みです。

ロード州リトルトンで始まつたエコノミックガーデニングは、雇用は2倍、収益は3倍という成功を収め、世界的に有名になりました。大企業誘致に頼るのではなく、地元中小企業を資源と捉え、その魅力を掘り起こすことで地域経済活性化に繋げていこうという、エコノミックガーデニングは日本でも注目を集めています。

鳴門市では2016年に中小企業の支援条例を策定し、市職員が年間100社以上の企業を訪問。支援金などの情報提供を行います。サポートしています。「業績の向上に繋がった」という声もある一方、「エコノミックガーデニングを知らない」という企業も多いといいます。

「エコノミックガーデニングは体系化された手法ではないため、各地でその土地にあつたやり方が摸索されています。例えば神奈川県寒川町では行政職員だけではなく、地域経済コンシェルジュという中小企業診断士の資格をもつた専門家も一緒に訪問し、Face to Face の伴走型の支援を実施しています。

中小企業の支援のあり方も含め、企業が抱える労働問題や生産

性の向上といった課題解決のためには、大学や経済の専門家、地域の経済団体、銀行などが一緒に取り組んでいくことが大切。中小企業を地域の資源と考え、その魅力をみんなで掘り起こし、経済の活性化に繋げるために産学公民民金が連携したプラットフォームを作り、地域が一体となつて進めていくことで、成果に繋がるのではないかと考えています」。

A professional portrait of a woman with shoulder-length dark hair, smiling warmly at the camera. She is wearing a dark blazer over a white top. The background is filled with shelves of books, creating a scholarly or library-like atmosphere.

段野先生の研究室では、行政機関や企業を訪問し、政策や財務状況について、ヒアリングやアンケート調査を実施。講義で習得した理論を実社会に応用し、課題を分析し、よりよい政策や経営のあり方を考えています。